

### 3月15日 東京を襲った「見えない雲」

東京電力福島第一原発では、3月12日の1号機と14日の3号機の爆発に続いて、15日午前6時過ぎに2号機で爆発が起こった。フランス大使館は15日午前の段階で「10時間ほどで東京に弱い放射能が到達するおそれがある」として、都内在住の自国民に外出を控えるよう勧告した。我が国の政府もテレビで解説する「専門家」も「健康には何ら影響の無いレベル」と繰り返しアナウンスした。

文科省が公表している「全国の放射線モニタリング状況」の東京を見ると3月15日のグラフには2つの山が記されている(次ページのグラフ)。1つは10時前後に0.5マイクロシーベルト、1つは19時前後に0.35マイクロシーベルト。これを見る限りはたいした値ではない。しかし注意したいのは、これはガイガーカウンターのような計測器で計った外部被曝を意味する放射線量だということ。場所は新宿区である。

3月18日、大阪府熊取町にある京大原子炉実験所内で、原子炉安全研究グループが主催する「安全ゼミ」が開かれた。安全ゼミのサイト <http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/index.html>

小出裕章さん(助教)は、「安全ゼミ」の直前まで行っていたという15日に台東区で採取された空気の実効線量を公表した(表1)。

表1 3/15 台東区の大気の実効線量

東京で採取した 空気中の放射性核種	濃度 [Bq/m <sup>3</sup> ]	実効線量 [μSv/日]
I-131	720	130
I-132	450	0.8
I-133	20	0.6
Te-132	570	24
Cs-134	110	28
Cs-136	21	0.9
Cs-137	130	23
小計		210

11:14~12:14吸引 小出裕章さん分析

これは空気中の放射線を吸引して分析したもので、当日、あたりを歩いていた人々はこれらの放射線を吸い込んだのだ。放射線の濃度はベクレルで表される。それが人体に与える影響を放射線値に換算して示したのが実効線量で単位はマイクロシーベルトで1日あたりの線量に換算されている。

小出分析は210マイクロシーベルト。ただし、吸引できるのは粒子状の放射能に限られ、ガス状の放射能は補足できない。小出さんの話では、それがヨウ素の場合、「6~7倍」あるのだという。それを加味すると「およそ1000マイクロシーベルトと考えられる」という。

1000マイクロシーベルトといえば即ち1ミリシーベルト。一般人の年間「許容値」に等しい。私たちが一年間に浴びてもよいとされる値を、わずか1日で、それも吸い込んだことになる。決して「健康には何ら影響の無いレベル」ではない。

この日の「安全ゼミ」には推進サイドの専門家とおぼしき人も来ていて、小出さんにすかさず「15日の(放射能の)滞留は3時間だった」とクレームをつけた。小出さんは24時間で換算しているから、その8分の1が妥当だという意味だ。小出さんは「それは知りませんでした」と答え、やりとりはそれで終わったが、私は引っかかっていた。

翌日、東京の友人が東京都産業労働局が世田谷区での放射線測定結果を公表していることを教えてくれた。それを見ると15日は丸1日放射能が滞留している。小出分析は都の分析結果より数値が高い。一方は台東区で一方は世田谷区、23区内に濃淡差があるのだ。

表2 3/15 東京都の大気の実効線量 (抜粋)

	濃度Bq/m <sup>3</sup>	μSv/日	10:00~11:00	11:00~12:00	小出分析
ヨウ素-131	496.8	90	241	83	720
ヨウ素-132	518.9	0.9	281	102	450
セシウム134	119.7	31	64	24	110
セシウム137	112.4	20	60	23	130
合計	1247.8	141.9	646	232	1410

24時間吸引 世田谷区で測定 μSv/日は小出分析から比例配分

11:14~12:14

最も高い値が出たのが10:00~11:00。その次が11:00~12:00で小出分析のデータ収集時間に近い。

都のデータの最も濃度が高かった時間帯に近いところに小出分析のデータもあること。核種を都と合わせれば1時間の比較では小出分析結果は6倍高い。

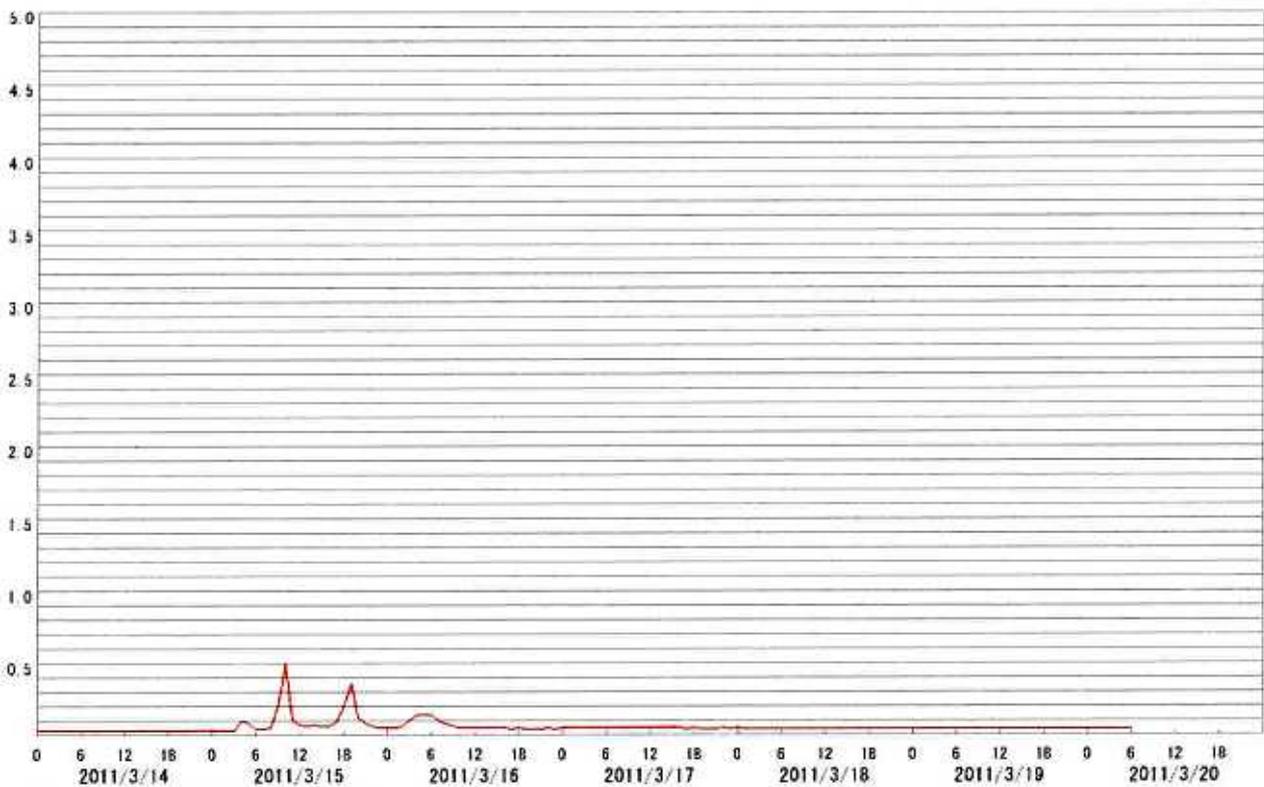
一方、都のデータの総量は約1248Bq/m<sup>3</sup>だが、小出分析のように核種を増やせば当然、値は増える。ここから導かれる実効線量は都のそれは142 μSv/日(小出分析より比例配分)、ガス状を加味して5倍として700マイクロシーベルトほどということになる。つまり1日で0.7ミリシーベルト。小出さんは1日あたりおよそ1ミリシーベルトと推測した。いずれにしても文科省の広報値よりずっと多い。

文科省は外部被曝を示して「健康には何ら影響の無いレベル」と言ってるが、都のデータ、小出さんのデータはともに内部被曝で「健康には何ら影響の無いレベル」とはいえない数値だ。特に幼児、「成長盛り子ども」は内部被曝には要注意だから、フランス大使館が自国民に勧告したように、政府も都民には「念のため外出を避けて窓を閉めるように」勧告すべきだった。

## 文科省サイトにある「全国の放射線モニタリングデータ」

### 東京都（新宿区）の環境放射能水準

2011/03/20 22:43 生成  
マイクロシーベルト毎時



過去の平常値の範囲: 0.028 ~ 0.079

5マイクロシーベルトは、原子力災害対策特別措置法において通報事象の発生(第10条通報)とされる値

文科省環境放射線モニタリングに基づき作成